

11/14(金) 菊池北小学校が平成20年度熊本県文化財功労者表彰を受賞



県文化財功労者表彰を受賞した菊池北小学校の児童

芦北町で開催された熊本県文化財保護大会で、菊池北小学校(倉原久義校長)が文化財功労者表彰を受賞しました。同校では、6年生を対象に「総合的な学習の時間」を活用して、狂言の学習・発表・交流を10年にわたり継続して実施しており、この活動が地域の文化財愛護意識啓発に大きく貢献していると評価されました。

倉原校長は「この活動も児童やその保護者の皆さんをはじめとする多くの関係者の協力により11年目を迎えました。文化財愛護の意識や世代間・地域間の交流など、この活動を通して子どもたちは大きく成長していると思います。今回の受賞は子どもたちにも励みになるし、今後も積極的に取り組んでいきます」と受賞の喜びと今後の抱負を話されました。

11/22(土) 「第4回夫婦の手紙・絵手紙コンクール」の入賞者を「いい夫婦の日」に表彰

菊池市が募集した「夫婦の手紙・絵手紙コンクール」の入賞者が決まり、その表彰式が、「いい夫婦の日」の11月22日に菊池夢美術館で行われました。

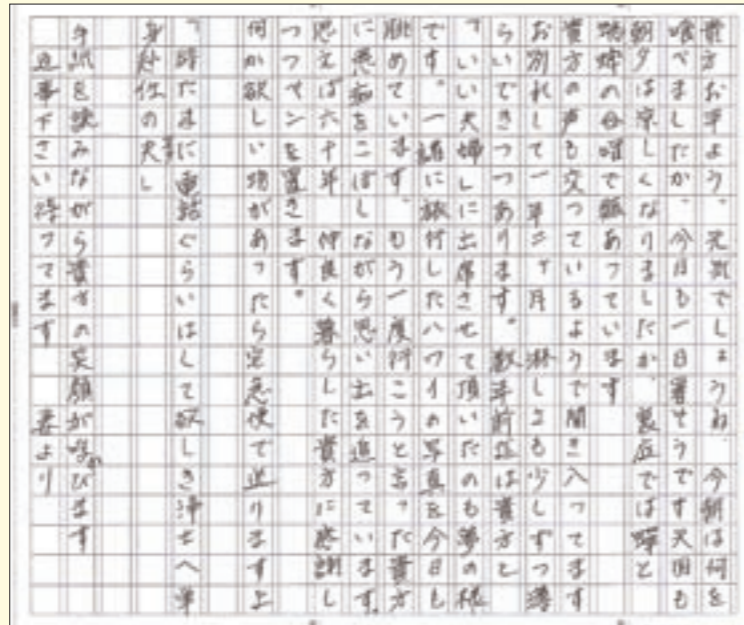
菊池市は、地名の「隈府(ワイフ)」と英語の「wife(ワイフ-妻)」との語呂合わせ、さらに「美肌の湯・化粧の湯」とも呼ばれ女性に人気がある菊池温泉をアピールしながら「おしどり夫婦の里」、「妻(女性)を大切にすまじ」としてのイメージづくりに取り組んでいます。

その一環として菊池市が平成17年からこのコンクールを始めたもので、県内はもとより、九州、中国地方、遠くは近畿地方から、手紙の部に90点、絵手紙の部に335点の応募がありました。表彰式では、夫婦の手紙大賞の岩崎照代さんなど15人の入賞者に賞状と副賞が贈られました。受賞者を代表して、岩崎さんが「天国の夫へ」と題した作品を朗読すると、岩崎さんのご主人に対する想いが伝わり、思わず涙ぐむ人の姿もありました。

●全応募作品は、1月28日(水)まで、菊池夢美術館(入場無料:展示時間午前9時~午後6時)に展示しています。



「天国の夫へ」と題した作品を朗読する岩崎さん



夫婦の手紙大賞に選ばれた岩崎さんの作品「天国の夫へ」(上) 最優秀賞(絵手紙部門)に選ばれた久保幸子さんの作品(左)

11/9(日) 旭志ふれあいニュースポーツ大会(ホタルの里まちづくり事業)

旭志グラウンドで、旭志ふれあいニュースポーツ大会が開催されました。これは旭志グラウンドの整備に伴い、ニュースポーツを通して世代間の親睦と交流の輪を広げ、地域を活性化させようといわれたものです。

大会には、くだけ友の会の児童と保護者、グラウンドゴルフ愛好者の幅広い世代が参加し、各チームに分かれ、グラウンドゴルフ・ベタンク・アジャタ・ドッチビー(ドッチビーのみ子どもと保護者だけが競技)の4種類すべての競技を巡回しながら行いました。

これらのニュースポーツは、子どもから高齢者まで一緒になって競技ができるもので、慣れない競技に最初は戸惑っていた参加者も、世代対抗で競技したり、全世代で協力して競技を行ったりする中で和気あいあいとプレーし、楽しいひと時を過ごしていました。



ベタンク(下)やアジャタ(上)を楽しむ参加者



11/9(日) 龍門林業研究グループ40周年記念式典



龍門林業研究グループ会員

龍門林業研究グループ(菊川賢一会長)の40周年記念式典が、菊池市やまびこ体育館で開催されました。龍門林業研究グループは、昭和44年に設立され、現在会員48人(男性26人・女性22人)で活動しています。

これまで、研修林「青年の山」の造成、毎月の例会(勉強会)の実施、部会(育林・椎茸・林産)ごとの活動、老人ホーム慰問など、さまざまな活動を通じ、地域林業の振興、農山村地域の活性化に貢献してきました。その活動が認められ、農林水産大臣賞や林野庁長官賞など数々の賞を受賞しています。

記念式典では、蒲島郁夫熊本県知事をはじめ多数の来賓の参加のもと、40周年の歩みが紹介され、式典終了後は、引き続き蒲島知事を囲みながらの「菊池地域の林業を語る会」が行われました。また、記念式典に先立ち、菊池市班蛇口地内では緑の少年団と記念植栽も行われました。

11/14(金) きくちべんりカー10万人突破

菊池市が運行している「きくちべんりカー」の利用者が、10万人を突破しました。10万人目の利用者となったのは、菊池北中学校横の音町停留所から乗車した岩根定子さん(高野瀬)で、市と運行する熊本電鉄(株)から記念品が贈られました。いつも病院や買物へ行く際に利用しているという岩根さんは「100円でどこまででも行けるので、とても便利で助かっています」と話されました。

平成16年6月の運行開始から4年6カ月での10万人達成は、当初の見込みより2年以上も早く、1日あたりの平均利用者数も運行開始当初が月約50人だったのに対し、最近では毎月80人を超え、利用者は現在でも増え続けています。

市では今後も皆さんから「べんりカーは、べんりかあ!!」と言ってもらえるよう、努力していきたいと考えています。



10万人目となった岩根さん(中央)を囲む、熊本電鉄(株)の吉田社長(左)と福村市長(右)